

方は、もと日全の傳方なるを、日全より淨閑へ傳授すと云傳へたり。按ずるに、越中舊事記に云ふ。富山反魂丹は、正甫公の時備州の淨閑といふ者の秘方なるを、日比小兵衛を以て傳法命ぜられ、諸人の爲め賣出し可然との命ありて、右小兵衛より松井屋源右衛門と云ふものへ傳授し、夫より追々賣出し、段々諸國へ賣弘め、今は六十餘州へ賣り廻る事となりぬ。とあり。右正甫公は富山藩の二代目にて、延寶二年九月襲封、寶永三年四月卒去也。然れば反魂丹を賣弘めたるは此の時世にて、日比小兵衛は富山の藩士なり。又妙國寺開基檀那佐々藤右衛門以下四人之内矢嶋平左衛門は、慶長十年の瑞龍公富山養老附士帳に、中村彌五左衛門組歩衆之内に五拾石矢嶋平左衛門。とあり。また金子萬右衛門は、同士帳に御餌指拾俵萬右衛門。とあり。此の萬右衛門は則金子萬右衛門が事なり。此の人は朝鮮人なり。寶永三年九月高麗者取調書に、金子先萬右衛門儀高麗者也。右御陣之刻、毛利安藝守殿手にて擒に罷成。瑞龍公被召出、御徒組に而御切米廿六俵被下、殺生御用被仰付、大坂御陣之御供も相勤、慶安五年病死仕。右爲跡目せがれ故萬右

衛門儀、微妙公被召出、父萬右衛門に被下置御切米之通拜領仕、御鷹匠組に被仰付、殺生御用相勤候處、其以後小川故七郎左衛門弟子に被仰付、火矢稽古仕候。先年此並之者刀を帶し候儀御改之節より、町奉行支配に被仰付候處、元祿十一年病死仕候。萬右衛門儀勝手困窮仕に付、爲助成、村井出雲方へせがれ吉右衛門召抱候様に仕度申上達候處、ヶ様の者用事に無之候へども、助成に罷成候儀は、萬右衛門儀跡々より出入も仕者之儀候間、召抱可申旨にて、萬右衛門存生之内より、吉右衛門儀出雲方へ小將組に召置申由に而、萬右衛門死去之砌先町奉行申開候は、此並之者跡目被仰付御格も無之候間、五十日過候は、屋敷指上可申候。御尋も御座候節は言上可仕候條、由緒書指出候様にと申開に付、前田故清八方迄書付出し候由申。とあり。按ずるに、其の居屋敷は延寶の金澤圖に、高岡町今枝民部居邸の末長町橋の高に高麗萬右衛門と記載す。今妙國寺に開基檀那金子某といへるは、舊藩士にて萬右衛門の子孫に非ず。金子氏なる故に開基檀那と云出でたるものなるべし。金子萬右衛門が子孫は早く絶えたりしと聞ゆ。

○大黒堂

妙國寺の境内にあり。此の大黒天の尊像は、日蓮上人の自作にて、丈四寸五分といへり。妙國寺十一世孝壽院日龜の時、初て堂宇を建立し爰に安置すと。靈像といへども傳言のみにて、縁起・來歴書等は傳來せず。

○蛇之池

妙國寺客殿の向ひなる林中にあり。池の傍に石の寶倉を置きて、玉木大明神と稱し蛇の靈を祀れり。右寶倉に木像を安置す。其の像に如左記載す。

太鬼女菩薩

文化三年寅十月十一代孝壽院日龜勸請。

右神像は、文化三年に彫刻して、寶倉に祀り鎮めたるものなるべし。舊傳に云ふ。往昔は卯辰山の大地と稱し、此の地に大なる池ありて大蛇住めりと云傳へ、そのかみ甚だ恐怖せしかど、此の地邊追々寺地と成るにより、池を埋めて後には僅小のものとなりたり。然るに其の埋残りの地を妙國寺の寺地となし寺造營ありしに、右古池の上に則ち本堂を建てたり。故に今も本堂の天蓋の下邊に古池存在すといへ

り。然るに種々寺中に怪異等ありて、寺中難儀せし故に、更に客殿の向ひに池を掘り、寶倉を建て、蛇の靈を玉木大明神と崇め、祀り鎮めたりといひ傳へたり。

○大谷山妙泰寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、越前國脇本妙泰寺之住職權大僧都日仁加州へ罷越、慶長十五年に建立。二世日成之時、備前中納言殿之姫君を玉泉院殿御養子に被成、當寺を檀那菩提所に被爲成候處、元和元年姫君逝去被成、理松院殿と號す。當寺境内に御納、御墓所有之。灰塚は卯辰山に築置候。右之御好みを以て、玉泉院殿御知行所大衆免村之内二段分、元和元年寺地に拜領之御印頂戴仕、寛永六年に利常卿より改て御印被下、今以所持仕。とあり。延寶二年の由來書には如左記載せり。

就御尋申上候。

一、拙僧寺之儀、備前中納言様御姫様玉泉院様御養子理松院殿壽貞大姊御菩提所に而、元和元年十月八日御逝去之砌、初七日より四十九日迄御法事被仰付、第一周忌には千部之御經御法事被仰付、於當寺執行仕候。則御墓有之、灰塚